

第 36 回合志市地域公共交通協議会

〔日時〕平成 28 年 1 月 13 日（水）午前 10 時 00 分～

〔場所〕合志市役所 合志庁舎 2 階大会議室

〔出席者〕藤井勝公委員、緒方博詞委員、寺本秀信委員、森邦弘委員、藤園直美委員、西郷節夫委員、塚本秀典委員、原田満恵委員、小田原勝也委員、野田徹志委員、山野一平委員、小森田政憲委員、片岡正和委員、富田一則委員、重光重信委員、松野完治委員、島川浩一委員、富加美尚悟委員、金森大次郎委員、原啓二委員、林省吾委員、今村豊委員、田中隆臣委員、

〔代理出席〕県北広域本部 福田恭久氏

〔欠席者〕新居唯一委員、牛島光英委員、輪内良一委員、溝上章志委員、

〔事務局〕濱田政策部長、澤田企画課長、牧野課長補佐、吉田主査

〔議題〕

協議事項

(1) 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

(2) 合志市地域公共交通網形成計画(案)について

その他

・平成 28 年度コミュニティバス運行委託費の積算根拠について

〔会議の公開・非公開の別〕 公開

協議事項（1）地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について
～事務局から資料を説明～

藤井勝公会長：何か意見、質問はないか。

西郷節夫委員：評価に循環バス須屋線が入っていない理由と事業評価結果の反映状況について具体的に伺いたい。

事務局：まず、国庫補助の対象の要件があり、フィーダー系統に対するの補助になるので、循環バス須屋線については対象とならない。また、反映状況においては、ダイヤ改正、また改正に伴い、全世帯にマップ（時刻表）を配布した。特に乗り合いタクシーについては、配布後利用客が若干上がってきた。理由としては、乗り合いタクシーの存在が明るみになったことで、今まで知らなかった人への新規の掘り起こしとして繋がったのではないかと考えている。

原田満恵委員：公共交通機関を利用している人の割合が、目標値が 69%に対して、65.6%となっている。合志市の公共交通の状況から 65.6%は十分な割合だと考える。目標値が 69%自体に無理が

あるのではないか。

事務局：過去 8 年間の市民意識調査では 68%前後を推移しているため目標としては、今後割合を上げていくため 69%と設定している。

森邦弘委員：公共交通の安全性について、先日新聞に載っていた。今後も安全第一で運行に勤めていっていただきたい。

小田原勝也委員：コミュニティバス、路線バス関わらず、安全第一が使命と考える。中には乗降に時間がかかることを気にされ、急いで乗降されたり、停車前から椅子を立たれたりケースがある。そういったケースに対して、「バスが完全に停車後に席をお立ちください」と案内をしている。今後も安全第一に運行していく。

塚本秀典委員：6P に明らかになった課題で広域手段の確保とある。乗降調査は出来ていると思うが、おそらく、乗り継いでどこまで行っているのかまでの調査はされていないと思う。乗り継ぎ後の流れなどの調査もやっていただきたい。自身の市民研究会で独自の調査をやっており、色々明るみになっている部分もある。また、広域手段の確保で高速バスへの接続強化とあるが、熊本市方面と福岡方面と両方への接続強化と考えていいのか。

事務局：熊本市方面と福岡方面と両方への接続強化と考えている。

塚本秀典委員：現在、西合志バス停で高速バス利用者は多い。朝だと数分おきに出ており、一日 108 往復出ている。県庁方面に行く場合路線バスと比べ高速バス利用の方が早い。ただし、毎日通勤通学などで利用する場合、都市間バスの性格上、回数券や定期券は使えず、毎日一般料金になると高くなり、やむなく一般路線バスの利用になってしまう。都市間バスの性格上市内だけの乗車は想定していないと思うため、出来れば、今後熊本市に本社を置くバス会社が、植木方面～熊本市内県庁方面あたりを高速道路を走っていただくと、回数券や定期券の設定が出来るのではないかと考え、今後の課題としてあげておく。

松野完治委員：事業評価結果の反映状況については、もう少し具体的に記載していただきたい。

緒方博詞委員：熊本電鉄様に伺いたいですが、現在試験運行として、再春荘病院から武蔵塚駅の路線を運行されているが、なぜ、再春荘病院が起終点となっているのか。なぜ御代志駅ではなかったのか。また、現在の利用状況をも併せて伺いたい。

小田原勝也委員：御代志駅は、国道の拡幅に伴って駅前の広場が狭くなった。以前はUターンが出来ていたが、現在スペースの関係上が出

来なくなったことが 1 点。また再春荘病院の通院お見舞いのニーズが結構大きかったため、再春荘病院を起終点と設定した。

利用状況については。平成 27 年 12 月からスタートしたが、まだ利用者は少なく 1 便あたり多くて 10 名程度、現在は熊本高専の生徒や再春荘病院利用者が多いと考えている。この路線は元々、すずかけ台、みずき台、泉ヶ丘から武蔵丘駅への通勤・通学のアクセスとして路線を引いたが、少ない便に関しては 2～3 名の時もあるため、現在利用促進のため路線住民に対して、ポスティング等で周知を図っている状況である。

緒方博詞委員：今の説明で理解は出来たが、今の路線について案としてカントリーパークを終起点とし、御代志駅を經由と出来ないか。カントリーパーク敷地内なら Uターンも可能であるし、カントリーパーク利用者としても利便性が高まると思う。

小田原勝也委員：この路線は、先ほどのとおり通勤・通学として設定しているため、時間帯が早朝であり、カントリーパーク開園前の時間帯になる。また、カントリーパークは休園日もあるため、休園日については駐車場敷地に入ることが出来ないため、今回はニーズに合わせて、再春荘病院を起終点と設定した経緯がある。今回試験運行が 5 月末まで。その後、本格運行とするか、廃止とするか、利用者の状況と先ほどの意見等を併せて参考にさせていただき、今後の運行について検討していきたい。

藤井勝公会長：他に意見等はないか。ないようであれば、承認をいただきたいが如何か。

各委員：承認

協議事項（2）合志市地域公共交通網形成計画(案)について
～事務局から資料を説明～

藤井勝公会長：何か意見、質問はないか。

原田満恵委員：19 ページの年間乗降客数の 100 人→100 人の意味が分からない。51 ページの御代志地区の土地利用イメージ図は文面と合っていない。69 ページの指標 4 の目標値 800 円とあるが現実的に 5 年後達成できるのか。

事務局：19 ページの年間乗降客数は凡例であるため、その旨記載する。

51 ページのイメージ図は平成 23 年に策定した重点区域土地利用計画のイメージ図になるため、記載については検討する。69 ページの指標については、運行経費が極端に上がらないのと同時に、利用者数の極端な減少と、今後の利用者の増加に努めることによって、現状維持を図れると考えている。

西郷節夫委員：69 ページの指標 2 の目標値 92,800 人の現状維持というのは消極的ではないかと考える。

事務局：今年度の料金値上げとダイヤ改定に伴い 10 月から利用者が減少してしまっている。まだ改定後 3 ヶ月だが、レターバスの昨年利用者数と比較すると月 1,000 人単位で減少している。これが、一時的な現象なのか恒常的な現象なのか、まだ、半年以上利用状況を見ていかないと分からない。平成 27 年度は平成 26 年度に比べ、利用者が減少すると推測しており、今回の目標設定値については、平成 26 年度ピーク時の利用者数を維持していくことで考えとして設定した。

小田原勝也委員：指標について、例えば路線が変更になれば指標もおのずと変わると思うので、指標は考えた方がいいのではないかと。また、西郷委員からの質問の事務局の補足をさせていただくと、今までの電鉄の路線バスでも料金改定を行うと、一時期利用者はかなり落ち込み、3 ヶ月から 4 ヶ月経つと徐々にある程度は取り戻す傾向がある。また、ダイヤ改正についても、今までの生活リズムが変わるため、その後、バスの時間に合わせるまで 3 ヶ月から 4 ヶ月要する傾向があると考えている。

事務局：指標はこのままで行きたいと考えている。今後パブリックコメントを実施する。その後修正等があると思うがその際検討する。

森邦弘委員：バス乗車の際、持ち込む手荷物の大きさの制限はあるのか。80 センチかける 80 センチぐらいの大きさを持ち込みたい。

小田原勝也委員：その大きさなら持込は大丈夫。

藤井勝公会長：他に意見等はないか。ないようであれば、承認をいただきたいがいかがか。また、今後の軽微な修正等については、会長一任としていただきたいがいかがか。

各委員：承認

その他 ・平成 28 年度コミュニティバス運行委託費の積算根拠について
～事務局から資料を説明～

藤井勝公会長：何か意見、質問はないか。

各委員：特になし